

標識、ミラーの清掃・点検

県土整備部に結果報告

吉田部長 官民両輪で県土づくり

県交通安全施設業協同組合



活発に意見も交換された

①案内・警戒標識、カーブミラー等の清掃および角度調整の案内・警戒標識、カーブミラー等の点検等③案内標識の維持管理―などを取り組んだ。

報告に先立ち白鳥理事長は、さまざまな組合活動に対する協力・指導に感謝して、「点検結果を参考にしていきたい。安全・安心な県土の構築の一翼を担っていきたいと思うので、今後とも指導をお願いしたい」とあいさつ。続いて、事務局の金子鉄也専務理事から詳細な報告が行われた。

それによると、総勢144人が県管理道路について標識、道路反射鏡の角度調整や板面清掃を1249基(①案内標識307②警戒標識448③路線番号標識208④道路反射鏡128⑤その他158)で実施。その結果、450基で改善対策の必要があると判定した。報告書は分厚いファイルとしてまとめられており、具体的には、緊急対策が必要なものが61基(①22②20③5④6⑤8)、中期的対策が必要なものが389基(①122②127③72④39⑤29)としている。なお、これらの結果は9月15日、23日に、所管する各土木事務所に報告している。報告を聞き、調査結果

県交通安全施設業協同組合白鳥和重理事長は27日、県土整備部を訪れ災害・建設業担当の吉田行伸部長らに、地域貢献活動として7月に行った標識・道路反射鏡などの点検・清掃等活動の結果を報告した。組合員企業の役員員延べ144人が1249基を対象に実施したもので、報告を受けた吉田部長はまず謝意を表したあと、要改善箇所に対応するとして、災害に強い交通安全県ちばの県土づくりを官民が両輪となって取り組んでいきたいとの考えを示した。報告を行ったのは、同組合の白鳥理事長をはじめ、茂木和仁、黒川恵史両副理事長と金子鉄也専務理事。県土整備部からは吉田部長のほか、所管する道路環境課の湯田尚登課長、大野敏夫副課長、

実倉英輝交通安全施設班長、飯塚貴之企画班長が出席し同部会議室で聞き活発に意見も交換した。ポランテア活動は、同組合が20年度から継続しているもの。10回目となる今回は7月14日、16日のうち2日間、県内を▽東葛・葛南地区▽千葉・印旛地区▽香取・海浜地区▽外房地区▽南部地区―の5ブロックに分け

厚い報告書が手渡された



厚い報告書が手渡された

の取りまとめ資料で確認した吉田部長は、近年まれにみる異常気象であった今夏に言及し、「この台風や大雨に伴う被災状況で、道路上における大きな人的被害がなかったことの1つの要因としてこうした施設の板面清掃や角度調整というきめ細かな縁の下の活動がある」と、今回の報告を聞いて「感じた」と話した。

同組合の地域貢献活動に、道路管理者としてあらためて感謝するとして、上で、「県の交通安全環境の改善につながる活動を継続いただければ幸いです。また、点検の結果、改善を要すると出先機関に報告された箇所については、緊急性の高い順に対応していき、災害に強い交通安全県ちばの県土づくりに、官民が両輪となって取り組んでいきたい」と述べ、引き続きの協力を求めた。